

第1章 平成19年度の研究について

高本 洋 西多 由貴江

1. 研究テーマ

学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて

～一人一人の自己表現をみつめて～

2. テーマの設定の理由

平成18年12月の教育基本法の改正によって、「幼児期の教育」という新たな条項が新設され、平成19年6月の学校教育法改正によって、幼稚園の目的・目標が見直され、幼稚園は小学校の前に規定された。それを受けて平成20年3月には、幼稚園新指導要領が告示された。その中で、生涯にわたって学び続けることの必要性や、幼児教育の重要性が訴えられている。また、幼稚園の具体的内容として「学びの連続性」や「小学校との連携や交流を図る」ことが明記されている。

そのような教育改革の中、私達は、平成16年度より3年間、研究テーマ「幼児期の学びを探る」を掲げ、幼児らが遊びの中で何を学んでいるのかを探ってきた。16年度は、学びにおける直接体験の大切さを再確認してきた。17年度には、学んだことを「身体的側面」「知的側面」「心的側面」「社会的側面」の4つの側面に分類し、学年による学びの特徴をつかんできた。そして昨年度は、4つの側面の一つ「社会的側面」に焦点を当て、①安心できる人間関係の中で学ぶ体験、②思い通りにならないことを通して学ぶ体験、③集団活動の中で友達を通して学ぶ体験、の3点が人とかかわっていく上で大切であることを確認した。

3年間の「学び」の研究で、幼児らが「生きる力」のもととなる様々なことを遊びを通して学んでいることが明らかになった。しかし、その学びを小学校、中学校にどのように系統立ててつなげていけばよいのかが明らかになっていない。そこで、幼児期の学びが小学校にどうつながっていくのかを明らかにしたいと考え、「学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて」をテーマに掲げ、研究に取り組むことにした。

3. サブテーマ設定の理由

昨年度、事例検討を重ねる中で、人とかかわりにおいて気になる幼児らの姿が話題となった。例えばトラブルにおいて、今おかれている状況に向き合おうとしなかったり、相手のせいにして自己防衛に終始したりする姿である。これらの姿から、人とかかわる以前に、自分の思いをもつ、自分の思いを表現する、という力が弱いのではないかと感じた。そこで、人とかかわる力を育むために、一人一人の自己表現をみつめていきたいと考えた。そして、3歳から5歳にかけてどのような自己表現のプロセスを経ていくのかを探ることが、カリキュラムの開発につながるのではないかと考え、サブテーマを設定した。

4. 研究の目的

- ・人とかかわる力を育むための一人一人の自己表現のあり方を探る。
- ・社会的側面の学んだことを洗い出す。(平成18年度からの継続)

5. 研究の方法

- (1) 各クラス1名の幼児を抽出し、追跡観察をする。
- (2) 事例を検証する。
 - ①抽出児の事例を収集する。
 - ②事例における「抽出児の自己表現のあり方」と「社会的側面の学んだこと」について考察する。
- (3) 抽出児の自己表現のあり方の様相を、一年を振り返ってまとめる。
- (4) ①すべての事例の「抽出児の自己表現のあり方」を一覧表にし、一人一人の自己表現のあり方について、見えてきたことを考察する。
 - ②事例から見取った「社会的側面の学んだこと」を、昨年度の研究から導き出した学びの内容の表に位置づける。